

1987.3.11.

(1)

(1) 現時東の焦り

① まず、経理上の処理(数値の確定)

現時東が判明している額は、現金、貯蔵金、預託金による不正問題とかさみは、未確定である。不正がない場合は、監査のルース“さてあるから、重々赤字として計上するところ”(→差損)、不正があった場合は、その証ととて、会計上の計上科目が変わる(ex. 預収金)

② 体質強化の方向で

難題は、何らかの検査を受ける場合、焦点は、赤字になるか否かにあるのではない。この革新的上に、自己回復力をもつたかの問題である。革新的原因とは、2つ以上の手を取り除くことなしに、革新的には、いつも再発する(不正であるかないかを問わず)。

③ 役員会の任務を解決する

過誤解の解決は、大半の状況を除いたが、基本は組合員の役員に対する後職員の結果の再構築であった。

理事長・専務理事の精神の下、理解・協力・貢献の勤務を。

④ 無益な次態をしない

事態は、まだ解明中である。それが10人の営業をかかえる、犯罪行為をめた時に、犯人扱いされれば、革新的はそれだけでも混乱を招く。新規な状況を冷静に見ておくことも必要。

⑤ しかるべき処置

自分がすぐ関係者の如何の問題に移ることがある(一般的には不図形者の顕著化もあり、よく流れます)。しかし、当事者、管理責任などときちんと分けし、管理責任を負うものは、「アリラジロ色の確認の下に、革新的一定の解決後考えることとする」として一時期モラトリアムが18ヵ月あることがある。当面の問題は、上記焦りだから。

(2) 役員会との連絡

こういう問題は、表に出さないことが多いので、「学び合う」という社会はない。しかし役員会と相談しながらやることも多いので、革新的は積極的である。乞有効活用。